

最近の魚病発生状況について

長崎県総合水産試験場

環境養殖技術開発センター 養殖技術科

昨年十月から今年九月までの魚病の診断件数は三〇四件と、昨年同期と比べて百件近く増加しています。これは、昨年問題になったヒラメに寄生する新種クドアや、本県が現在技術開発を行っているクロマグロ人工種苗の住血吸虫検査等が増えたためですが、その他にも本県の養殖はマハタ、クエ、カワハギ等の新魚種があり、発生する魚病は多様化しています。

今回は、最近の魚病診断状況、本県で新たに確認されたクロマグロの 溶血性レンサ球菌症、カワハギのミコバクテリウム症についてご紹介します。

最近の魚病診断状況

ブリ属魚類(ブリ、ヒラマサ、カンパチ)では、レンサ球菌症、ノカルジア症、白点病、エラムシ症、住血吸虫症等が確認されました。理由は不明ですが、近年、ブリの診断件数が極端に減少しています。

トラフグでは、外部寄生虫のシュードカリグス症の被害が拡大しているようです。また、粘液胞子虫性やせ病、滑走細菌症、吸虫性旋回病、ギロダクチルス症の他に、新しいピブリオ病(ピブリオ・ハーベイ)も確認されています。

マダイでは、稚魚期の滑走細菌症、二年魚のエドワジエラ症が多く確認されています。

ヒラメでは、エドワジエラ症の発生が依然として多い状況です。また、レンサ球菌症は以前は溶血性レンサ球菌症(ストレプトコッカス・イニエ)が多かったのですが、近年はストレプトコッカス・パラウベリスによるレンサ球菌症の被害が増加しています。その他、ヒラメに寄生する新種のクドア(クドア・セプテンブクタータ)が食中毒に関与していることが薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会食中毒・乳肉水産食品合同部会で報告され、一斉に調査しましたが、幸い県内のヒラメ養殖業者と種苗生産業者のヒラメからは新種クドアは検出されませんでした。

クロマグロでは、稚魚期の衝突死と住血吸虫症による被害が多いようです。その他、脳粘液胞子虫や心臓クドアの寄生も多く確認されています。

クロマグロの 溶血性レンサ球菌症について

今年の六月に県内数箇所のクロマグロ養殖場において、二年魚(十キログラム程)のクロマグロのへい死が確認されました。外観症状は特に異常がない魚が多く、へい死は一日に数尾程度でしたが、開腹すると心臓表面の膜が白く炎症を起こしており、重篤個体では心臓表面が皺だらけになっていました。その心外膜や腎臓および脳からレンサ球菌(ラクトコッカス・ガルピエ)が多数検出されました。

ブリで 溶血性レンサ球菌症が発生した場合はエリスロマイシン等の抗生物質の投薬が有効です。クロマグロの 溶血性レンサ球菌症もブリと同様に抗生物質の投薬で治療することが可能ですが、薬剤耐性菌がいる可能性もありますので、もしも本症が発生した場合は、水産試験場や水産業普及指導センターで薬剤感受性を確認してから投薬を行うようにしてください。



炎症を起こしたクロマグロの心臓

カワハギのミコバクテリウム症について

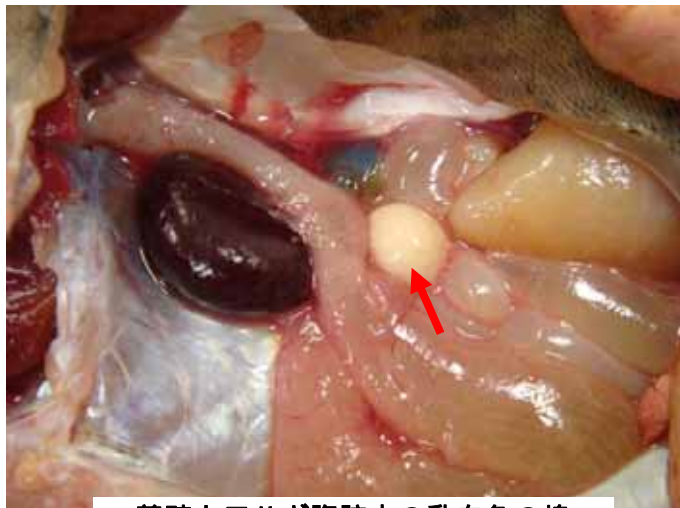
カワハギのミコバクテリウム症は数年前から他県では確認されていましたが、今年、本県で二例確認しましたので、その事例を紹介します。

一例目は、昨年十一月に他県から県内の養殖場に導入されたカワハギで、十二月から今年二月に

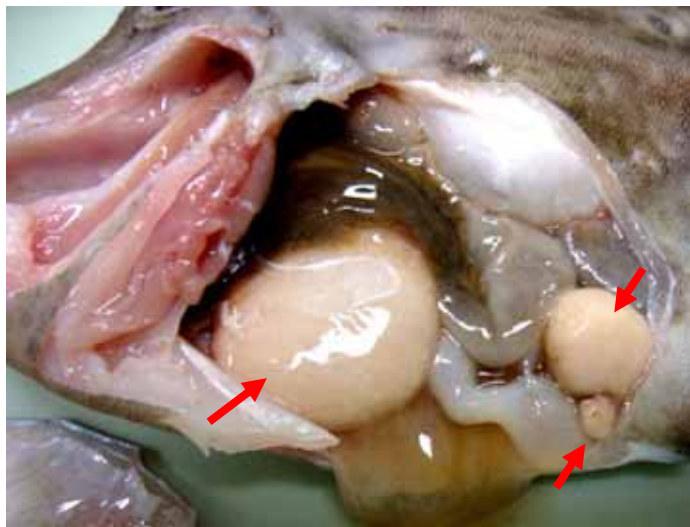
かけて毎日十から二十尾のへい死が一ヶ月半続く事例がありました。検査すると、腹腔内に乳白色の丸い塊が見られ、この中からミコバクテリウム属の細菌が検出されました。

二例目は、今年六月に定置網で漁獲された天然カワハギから同様の細菌が検出されました。この時は、腹腔内の乳白色の塊の直径が大きいものでは三センチメートル程ありました。ちょうど白子（精巣）のようにも見えますので、間違えて食べないように注意してください。

カワハギのミコバクテリウム症の原因菌は、ブリのミコバクテリウム症の原因菌とは別種で、新種の可能性もあります。有効な治療法は知られていませんので、今後発生に注意が必要な細菌性疾病と考えられます。



養殖カワハギ腹腔内の乳白色の塊



天然カワハギ腹腔内の乳白色の塊

おわりに

今回紹介しましたように、既知の魚病が依然発生しており、また近年、新たな魚病も確認されています。

これらの対応には投薬等が必要な場合がありますが、消費者の安全・安心に対する意識の高まり等から、養殖業者の皆様には、これまで以上に水産用医薬品の適正使用に十分留意していただく必要があります。投薬等が必要な魚病が発生した時は、適切な対策を取るため、総合水産試験場または最寄りの水産業普及指導センターへご相談ください。

総合水産試験場では、新たな水産用医薬品の承認に向けた取り組みを行うとともに、魚病の診断や防除対策等魚病全般に対する相談を随時受け付けております。相談される際は、窓口である水産試験場養殖技術科（〇九五 八五〇 六三一 九）へご連絡ください。

（主任研究員 杉原 志貴）

